

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ベルエポック	評価実施年月日	平成21年10月1日～平成21年11月10日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>当法人の基本理念である「地域への還元」の元に、併設施設と一体の帯広けいせい苑「ケア理念」に沿い、グループホーム基本理念を、地域に根ざしたサービス事業所の理念として掲げている。</p>	○	小中学校との公的機関との交流が中心ですが、地域性を考慮しながら積極的に参加の場を求めていきたいと考えています。
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>法人の基本理念に基づき、開設時研修にて、職員全員へ周知している。ケース会議などにおける利用者へのケア視点等もそこに基づく考え方となるようにしている。</p>	○	利用者に対する観察眼と対応する姿勢を、より一層向上させていく。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>入居契約時に、当施設の理念及びケアの考え方、環境としての家族の役割について説明する。入居後も、利用者の実際を家族と共有しつつ、一緒に生活を作っていく。同様に運営推進委員会でも説明し、賛同して頂く。</p>	○	今後も入居者家族に対し、共に支援する関係作りへの考え方を伝え続けていくと同時に、家族や地域に様々な方法で施設や利用者の状況を伝えながら、この地域にある施設として運営していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>ボランティアや慰問、運営推進会議の際は、必ず「再訪」をお願いしている。保育所の子供達が、バスの待ち時間を「寄りました！」と突然の来援はうれしい事であった。</p>	○	まずは、利用者との「顔」のつながりを職員がアシストしていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>近隣の小中学生の慰問とともに、施設間の交流を定期的実施。また併設施設との交流をはじめ、近所の障害者授産施設の行事への参加などを行っている。</p>	○	まだ実施には至っていないが、運営推進委員会が、地域参加に対する希望を積極的に検討してくれるようになってきており、うれしく思う。
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>GH単独では取り組みは難しいが、行事などのお誘いや併設の認知症デイサービスと合同で運営推進委員会と交流の機会を作っている。</p>	○	併設の各施設と情報流通し、当ホームが地域の高齢者に楽しんで頂ける役割を模索していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価の設問を確認し、早急課題または検討課題など分析し、改善に取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も地域に向けての視点が多い中、反対に地域からの視点として、GHの生活の貴重な意見としている。このような機会が増えることを期待すると共に、様々な観点での意見を頂けるよう配慮していきたいと考えている。</p>
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>入居者の状況と今後の方針を、より円滑に奨めるために報告・相談をさせて頂き、非常に協力的にいただいている。また、委員以外のご家族参加も積極的に参加されるようになってきている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市職員の施設見学や実習を受け入れたり、介護保険課に意見やサービスに関する情報を頂いたりしている。敬老会への出席も頂いた。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修報告や各自の学習による。それらを主とする会議の場はない。</p>	○	<p>職員の共通理解と責務をより意識できる取り組みを考えていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>当施設の『ケア理念』を常に念頭に置き、抑制や虐待だけでなく、不快のない介護に、注意を払い防止に努めています。</p>	○	<p>法人全体としての各種委員会(事故防止委員会など)や研修の情報交換と共に、日頃のケアの中で振り返り、それをもとに各自をチェックしていく体制を作り上げていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入居契約時には、運営規定や重要事項説明書・個人情報保護等について、利用者・家族に十分な説明を行い、さらに個別の状況を検討しつつ、理解・納得・同意を頂いてから契約を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者からスタッフや外部の第三者委員等に不満や苦情を言われる事が少ない分、家族や第三者委員に施設を知って頂き、運営の健全化を図っています。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>面会時にはもちろんの事、家族に連絡をとる際等に日頃の様子を積極的にお話しています。また急な体調の変化や、対応の変更があった際にも家族に伝えるようにしています。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情受け付け係を施設内に配置していると同時に、第三者委員会を設け利用者・家族より苦情を言いやすい配慮をしている(利用契約時に説明をしている)。運営推進会議の際は、家族も参加出来るような行事を行い、スタッフとの関係をより深める事によって『話しやすい』状況を作りつつ、共に支え合う関係作りを心掛けています。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議や日常の中でスタッフの相談を聞き、意見を出し合いながら運営しています。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者に合わせて、シフトを調整しています。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の退職や異動があり、事前に入居者の方々には紹介など慎重に行った。また同様に、ご家族にも面会時だけでなく、電話する機会に重ねて説明をした。職員と共に、御家族が入居者に同じように影響がないように協力してくれる事もあった。</p>	○	<p>職員の動揺し、影響のないように配慮します。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>当施設は育成目的の人事考課を取り入れており、日常業務を通じスタッフ個々に合った育成を目指す。今回はGHのみ、公開性し職員間の相互育成を期待する。また外部研修や苑内の合同研修を実施。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>地域での他の施設との交流はほとんどない。併設施設からの情報を活用している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>法人全体の活動として、作業管理委員会を設置する。また職員の個人的な事情(勤務時間や有給など)、できるだけ調整し、対応する。</p>	○	疑問や思ったことをできるだけ早いうちに表出できる環境を作っていく
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>本来の職務も常に自覚する働きかけと共に、それにそった反省材料や向上した事など具体的に納得できるよう心掛ける。</p>	○	育成目的として人事考課を、さらに日常に即して活用する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前・後に関わらず、話をすることを大切にしています。その中で不安や楽しみ等今後役に立てる事は、積極的に職員間で協議する。</p>	○	会話の中での、内容だけでなく表情やしぐさからもっと心境を洞察する力を身に付ける。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>双方が十分に説明、話し合う場を大切にしている。GHとしても、入所者または家族の方とも「何を大切にしたいか?」、「こんな事をしていきたい。」と話し合うことを大切にしている。</p>	○	まだまだ家族の方に遠慮がある。「一緒に」ケアを勧める気持ちを作っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	状況を聴取し、必要時には居宅介護支援事業所や現在利用している介護サービス事業所等に連絡し、相談内容等解決に向けた動きをとっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	面接時、家族や本人から様子や希望を伺うのはもちろんですが、入居前よりグループホームに足を運んで頂いたり、雰囲気を感じて頂き少しでも不安を取り除けるように努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人が何をしてみたいのか？ どうしたら本人が輝くのか？を念頭に置き対応しています。家事などの日常的な活動も含め一緒にいき、それらからアドバイスを頂いたり、一緒になって考えたりしています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の事で困った時悩んだ時等、積極的に連絡を取ったり、話をするようにしています。また、家族からの要望だったり、以前の本人の様子などの話にも耳を傾けるようにしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係を良好に保てるよう、関係の理解や協力を行っています。認知症が進行した事等により、家族との距離が離れてしまわないように、職員からの支援もしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人や店等、関係が途切れないよう出向いたり交流を持つように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士お互い助け合ったり、顔なじみの関係になるようそっとお手伝いをさせて頂いたり、見守りながら支援しています。	○	時には利用者同士、喧嘩ごしになる事もありますが、それで関係が壊れる事のないよう、違ったアプローチで対応していきたいと思っています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	最近では併設の特別養護老人ホームへ入所される事がほとんどなので、利用者職員とで遊びに行ったりしています。また退所された方の家族の方が、時々遊びに来てくれます。	○	利用者同士お互い助け合ったり、顔なじみの関係になるようそっとお手伝いをさせて頂いたり、見守りながら支援しています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃より、利用者に関わったり会話をする中で、本人の希望や意思をキャッチするように心掛けています。また、日常の中や会議等で対応に活かせるようにしています。	○	足りない情報、知りたい事等は随時家族に尋ねるようにしています。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にこれまでの生活歴や馴染みのもの等を把握するようにしています。また、アセスメントの記入などでも行っています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ひとりひとりの体調や気分、様子等常に見守り、把握するように努め、その日に合った活動や行動をとって頂くようにしています。こちらから無理強いしないよう、なるべく本人と相談しながら行っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入所時や状態等の変化があった際アセスメントをしたり、すぐに職員間で意見を出し合うようにしています。本人・家族の意見等も踏まえて計画を立てるようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間内に間に合わないことも多々あったことは反省すべきである。日常の変化を職員関係者だけでなく、家族とも共有し、それを反映したプラン作りをする。	○	もっと関係者の輪を広げていきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ただ記録するだけでなく、そこを読み取りそれぞれが展開する力を身に付けるよう、記録方法を検討したり、話して確かめる努力をしている。	○	日常の観察力を身につけていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設施設との医療連携と、必要に応じて直接各種相談できるよう配慮する。また、GH内で終わらないよう、行事など共同企画している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	残念ながら地域の関係は少ない。	○	地域からの小中学校などの慰問を、定期行事に終わらすことなく、継続し定着させていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在特にそのようなことはないが、包括マネージャーなど、その人と直接関わっていたら、他のサービスや事業所の取り組みなど、アドバイスをいただく。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加、現在の状況を多角的に情報を得る機会としている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>それぞれのかかりつけ医に通院している。またそれ以外にも、当苑の主治医にも適時相談する。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>当苑の担当医が大江病院であり、変化や様子について、適時相談できる体制にある。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>日常の身体的変化、また通院結果など細かく相談・報告している。またバイタル測定時には、会話から心情なども伺っている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院した場合、できるだけ毎日面会に出かけている。またその様子を、家族にも連絡し、お互いの状況を共通化すると共に、安心できるように心掛ける。家族の許可があれば、病院との説明にも同席する。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入所時の説明と共に、日頃の身体変化と対応について細かく話している。その上で、医療機関と協議する。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>現在、重度の方はいないが、必要に応じて併設施設の機能と協力する体制にある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>グループホームの説明・どんな所なのか？という説明を行い、他の入居者や職員の紹介もしている。出来るだけ不安を取り除けるように、心配な事等を話して頂けるように配慮し橋渡しをしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシー保守や秘密事項厳守を前提に、ひとりひとりに合わせた会話や会話の援助と共に、話の内容や周囲の状況を組み合わせながらホールや居室を活用し、安心して頂く。個人情報の取り扱いは職員のみで、持ち出し厳禁。</p>	○	<p>話題や本人の様子、周囲の状況を考慮して、場所や職員を変える等の配慮。また、面会の際の配慮と工夫。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>出来るだけこちらからの話が伝わるように、本人に合わせた声掛けをするように心掛けている。また、障害や判断する力を総合的に考えて、現在の能力と潜在力を発揮・表出出来る事を目指す。</p>	○	<p>なかなか思ったり、考えたりした事を自分から話にくい方もいるので、こちらから気に掛けたり様子等を伺い声を掛けるようにしていきたい。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>本人から希望があった場合は、出来るだけその日の内に希望に添えるよう対応している。通院等でどうしても対応出来ない場合は、他の職員とも連携を取り、早い内に実行するように努める。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>こちらからの一方的な意見だけで、化粧や髪型を決めないように配慮している。散髪は、出張美容室を利用している方が多いが、その方に合った所を選んだりしている。</p>	○	<p>女性利用者の化粧については、普段の生活の中でももう少し機会を増やしてみてもどうかと思う。</p>
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>準備・調理をして頂き、充分でない所はこちらでお手伝いをさせて頂く。どのような事が楽しくなるのか嬉しくなるのか、それぞれのあり方を考えている。</p>	○	<p>一緒ではなくても、職員の見守りによって本人が一人でやれる満足。それを考えてみたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の希望を取り入れるように、買い物に行く前に欲しい物を聞いたり、直接一緒に見たり、手にとって好きな物を選んで頂く機会を設けている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日常の中で職員同士の相談等を大切にしています。まだまだ一人ひとりのパターンを十分に把握しきれていないですが、一人ひとりの行動やパターンを観察している。	○	日々の小さなことでも職員全体で相談・検討しながら、十分に納得して行えるようにしていきます。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	特に曜日や時間を設けていません。いかに気持ちよく入浴していただき、「ほっ」と出来る瞬間を作ってあげる事を念頭に置いています。気分を害さぬように配慮し、無理強いはしません。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	外に長い時間出掛けている日や行動的な時には、他職員に申し送り疲れを残さないよう配慮しています。時々職員がほかのお年寄りの対応でお待たせしてしまう事もありますが、きちんと、説明し納得して頂けるよう声を掛けています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	料理の得意なお年寄りには食事作りや茶碗拭きをお願いしたり、裁縫の得意な方には台拭きや雑巾縫いをお手伝い頂いています。夏場は外に散歩に行き花を摘んできて居室に飾ったりと気分転換になればと思っています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	きちんと管理出来る方があまりおらず、一部のお年寄りに限ってしまっていますが、本人にお金を管理して頂き、ご自分の好きな物を買ったりとしています(飲み物やお菓子物等)また職員と一緒におこづかい帳をつけ、毎月の決められた金額からやりくりしている方もいらっしゃいます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	当施設では「買い物に」という要望が多く、なるべくすぐに行動できるよう努力しています。本人がその時思ったことやしたい事を実現できるようにと思っています。又、お年寄り全員でお花見や紅葉見学に出かけたり、ドライブ(散歩)がてら近くのアイス屋さんに出かけ食べに行くこともあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	上記にあるようにお花見等にはご家族にも声を掛けさせて頂き、一緒に楽しい時間を過ごされています。又、ご家族や地域の方々にもご参加頂きお食事会を行うこともあります。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族同士のお話はなるべく、本人で電話して頂いています。手紙のやり取りは希望している方が、今現在の所いらっしゃらないので行っていませんが、遠方の方で必要な方がいれば対応して行きたいと思います。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	食事摂取が困難な方がおり、御家族が食事の時間に合わせ面会に来られ様子を見に来てくれたりもします。面会時間の制限も特に設けていませんし、お年寄り本人が眠られていても、すぐに帰らず職員とお話して下さるご家族もいらっしゃいます。ただ、"居室の活用"がうまくできていない。	○	居室をもっと活用出来れば面会時でも、さらに居心地の良い空間や
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	1人1人が注意し、ほかの職員の言動や行動にも気にかけています。特に様式を用いて行ってはませんが、1人でなんでも決めず、職員同士で相談し合い考えています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は施錠せずに過ごしていただいております。外に行きたい時や「帰る」といわれた時には、後ろからこっそりついていき、危険のないように対応し、本人が納得出来るまで付き添います。まずは、鍵にたよらず1人1人の行動をしっかりと把握して行くことが必要だと思っています。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	権利擁護、身体拘束などを前提に、安心ある生活のひとつとして注意していく。	○	馴れ合いによって侵害することのないように、自己点検をする。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	物だけでなく、「何を注意すべきなのか?」、また取り除いたりする場合の影響も考慮する。ただし、薬品など明らかに危険なものは厳重に保管する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	避難訓練や事故対応など、苑全体での取り組み・マニュアルを把握。実際の食事や歩行状態の変化など、すぐにキャッチし対応するよう心掛けている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	併施設と緊急時対応をしている。緊急時対応など訓練しているが、実際には職員個々の技量や経験の差が予想される。	○	「まずは落ち着いて対応」、そして段取りを再度確認していく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に避難訓練を実施。一番手薄になる夜勤帯などの火災想定して実施。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	入所者の気持ちを主にして、「どのように暮らしてほしいか。」と協議し、GHとしての取り組みについても随時説明させていただいている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	少しでも気になる場所があれば、職員間で相談し、必要であれば別館のNsに連絡し指示をもらっている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	頓服等で服用されている方々もいらっしゃるため、職員同士で申し送り、様子を細かく伝え合っている。薬の事で疑問があれば、かかりつけ医やNsに相談し解決できるよう努めている。誤飲のないように1つ1つ名前を確認しながら行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	毎朝食時には牛乳をお出ししたり、なるべく水分を取っていただいたりしている。必要な方には排便のチェックをし、Nsと相談し下剤の調整など行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後ではありませんが、口の中にたまっているようなら必要に応じて行っている。又、寝る前には必ず義歯の洗浄をし口臭予防をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	好き嫌いもあるので、好んでもらえる飲み物を勧めている。また糖尿病の方もいらっしゃるの、食事量や糖分のバランスには気を使っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	夜間に皆さんが眠られたころ掃除などをし、対策しています。感染症のマニュアルがありますが、完璧には出来ておらず、改善する所もある。	○	感染症の対策マニュアルに沿って行っていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所・器具や布巾・タオル等は漂白剤で洗い清潔を保ち、食器は洗浄乾燥機を使用し衛生的に管理している。食材は賞味期限を確認し、期限が過ぎている物は廃棄するなど徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節の花などを生けたり、置物などを置き親しみやすい空間作りに心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の花、写真、行事の装飾物を入居者と一緒に飾り、その方の好きな敷物・座布団・音楽等様々なものが居間に持ち込まれ自分の存在を表現しています。入居者は一日中、居間で過ごされソファで横になり昼寝をしたり、新聞・テレビを見たり、時には何人かの方でゲームを楽しまれたり、料理をしたりとさまざまな姿で過ごされています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間の中には大きなテーブルが二つあり、ソファも三つあったりとそれぞれにホッと一息ついたり、気の合う人と話したり、外の様子を眺めたり、こっそりお菓子を食べたりと自由に使い分けています。	○	整理整頓を心掛け、雰囲気のある空間作りをして行きたい。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	持ち込み品は全く自由です。出来るだけ使い慣れた家具・身の回り品を持ち込まれるよう呼びかけています。自室は本人・家族、本人・職員で相談しながら使いやすいように作っています。	○	殺風景な部屋にならない様に配慮して行きたいです。(こちらにある物で使って頂ける物があれば使って頂く)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	冷暖房の設備は整っており、一年中快適に過ごす事ができますが、夏などは出来るだけ窓を開け自然の風や空気を入れるようにしています。	○	冬季間どうしても空気の乾燥が激しくなり、湿度の調整に苦労しています。洗濯物を干すだけでは、湿度が足りないので加湿器を個人の居室や廊下・居間等に置き湿度を維持しています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレの手すりなど安全に生活できる工夫がされている。居間のテーブルやソファも車椅子の方が通りやすい様に広さを確保しています。	○	お風呂場の手すりの設置を個々に合わせた位置にできればと検討して行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者個々のわかる事を個別に把握し、利用者に沿った環境を整える。	○	ご自分の身の回りの物が足りない等、ご自分でお金の管理が出来る方には、買い物などお手伝いして行きたい。(買い物する事の楽しみを味わって頂きたい)
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭には菜園があり、野菜の苗などを植え収穫の楽しみを味わって頂く。裏芝生には野鳥のえさ台を作り室内からも見え楽しんで頂ける。暖かい時などは芝生にテーブルや椅子を出しお茶を飲んだりして季節感を感じて頂ける。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②<u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②<u>職員の2/3くらいが</u> ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②<u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①<u>ほぼ全ての家族等が</u> ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 入居者の方が、さらにイキイキと自分らしく生活を楽しんで頂ける事やそれぞれの役割や活動を通じて、内在している力を発揮していただけるように心掛けています。また最近家族の方が積極的に、生活にかかわって頂く場面が多くなってきました。今後も、より気軽に関わって行ける施設の雰囲気づくりやスタッフの配慮をしていきたいと考えています。